

16:11 私たちはトロアスから船出して、サモトラケに直航し、翌日ネアポリスに着いた。

16:12 そこからピリピに行った。この町はマケドニアのこの地方の主要な町で、植民都市であった。私たちはこの町に数日滞在した。

16:13 そして安息日に、私たちは町の門の外に出て、祈り場があると思われた川岸に行き、そこに腰を下ろして、集まって来た女たちに話をした。

16:14 リディアという名の女の人が聞いていた。ティアティラ市の紫布の商人で、神を敬う人であった。主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに心を留めるようにされた。

16:15 そして、彼女とその家族の者たちがバプテスマを受けたとき、彼女は「私が主を信じる者だと思いでしたら、私の家に来てお泊まりください」と懇願し、無理やり私たちにそうさせた。

16:16 さて、祈り場に行く途中のことであった。私たちは占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。この女は占いをして、主人たちに多くの利益を得させていた。

16:17 彼女はパウロや私たちの後について来て、「この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えています」と叫び続けた。

16:18 何日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り向いてその霊に、「イエス・キリストの名によっておまえに命じる。この女から出て行け」と言った。すると、ただちに霊は出て行った。

この女性は「占いで利益を得させていた」というのですから、けっこう当たったのでしょう。しかし、

「幾日もこんなことをする」とあるように、その行動はあきらかに正常ではありませんでした。

このように悪霊は不思議な力があるものの、人を不幸に陥れるのが常なのです。悪霊とは反キリストの霊であって、人を救いから遠ざけるものです。

さらに「もうける望みがなくなって」とあるように、悪霊は人の欲望に取り付き利用します。さらにはパウロたちを迫害したように、神とその働きに害を与えます。悪霊の力や働きを見抜けるようになりましょう。それには聖霊に従う者であることです。

神はそのような悪霊をあばき、悪霊の力を利用して、結果的に看守とその家族を救われたのですから。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

